

2017年漁期におけるヤリイカ冬季来遊群の漁況予測結果

2017 年漁期（2017 年 8 月–2018 年 2 月）に青森県–北海道渡島–岩手県で漁獲されるヤリイカ冬季来遊群の漁況予測を行ったので、その結果をお知らせします。

【予測結果】 約 2,400 トンと前年を上回る

予測漁獲量: 2,471 トン

前年（2016 年 8 月–2017 年 2 月）の漁獲量 1,567 トンに比べて 158%

直近 5 ヶ年（2012 年–2016 年）の平均漁獲量 1,348 トンに比べて 205%

一方、近年は予測結果がはずれやすい寒冷レジームに突入したと考えられている（後述注意事項参照）。

【漁獲状況】

1985 年に 696 トンと最低となって以降、増加に転じ 2000 年頃まで 2,000–4,000 トンで推移した。2000 年以降は減少傾向となり、2002 年と 2007 年を除き、1,000–1,500 トン程度で推移し、2008 年以降は 1,000 トン前後、2014–2016 年は 1,529–1,696 トンで推移している。

【方法】

予測対象: 2017 年 8 月–2018 年 2 月のヤリイカ冬季来遊群の漁獲量

予測海域: 青森県–北海道渡島–岩手県（青森県日本海沖合底びき網漁業を除く）

予測方法: 説明変数として当該海域の漁期序盤（8–11 月）の漁獲量 A と、目的変数として漁期全体（8 月–翌年 2 月）の漁獲量 B について回帰分析を行った結果、有意な回帰が認められ（ $p < 0.001$ ）、切片および傾きともに有意であった（ともに $p < 0.001$ ）。従って、 $B = 3.37 \times A + 551.87$ （寄与率 78.4%）という回帰式を得て、下記(1)–(3)の漁獲データを代入して求めた(図 1)。

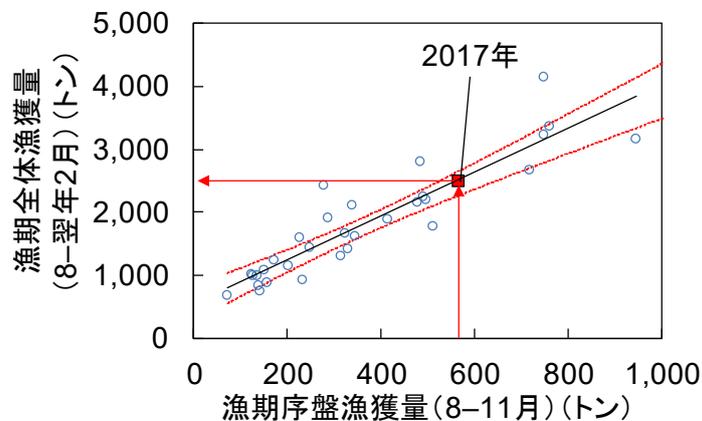


図 1 漁期序盤と漁期全体の漁獲量の関係

【注意事項】

この手法によるヤリイカ漁況の予測値は、海洋環境が寒冷であるとはずれ値が大きくなる傾向がある（図2、3）。2014年漁期以降、北太平洋は寒冷期に突入したと考えられており、本予測結果のはずれ値は大きい可能性がある。

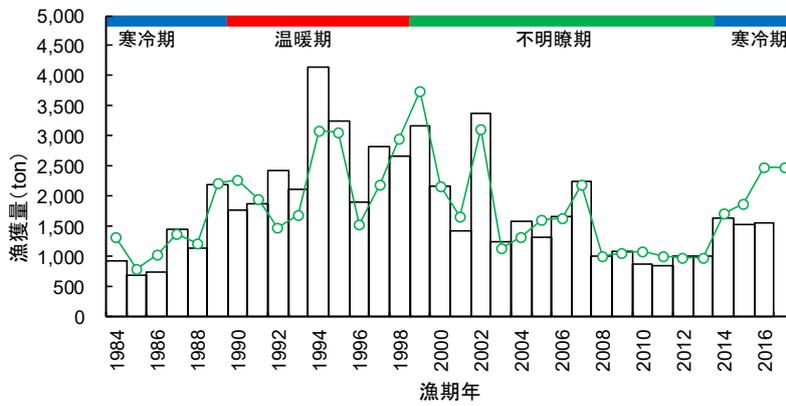


図 2 青森県-北海道渡島-岩手県におけるヤリイカ冬季来遊群の漁獲量の推移及び予測値。棒は漁獲量、折れ線は予測値、図上カラーラベルは海洋環境レジームを示す。

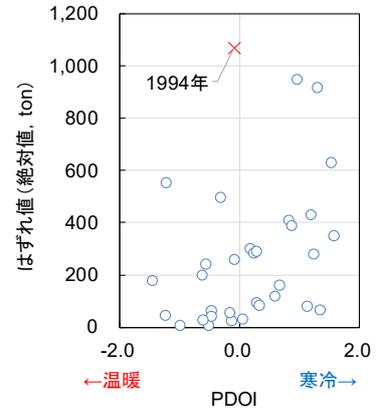


図 3 PDOI(太平洋十年規模振動指数)と予測結果のはずれ値(絶対値)の関係($r = 0.471$, 但し特異な 1994 年を除く)